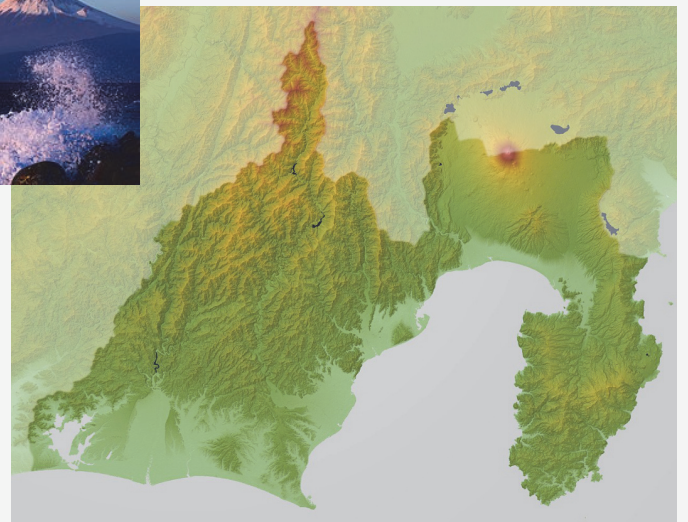
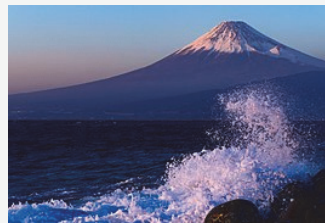


静岡県における 地球温暖化対策の 過去・現在・未来

静岡大学地域創造学環教授（環境政策）

水谷 洋一 mizutani.yoichi@shizuoka.ac.jp

はじめに

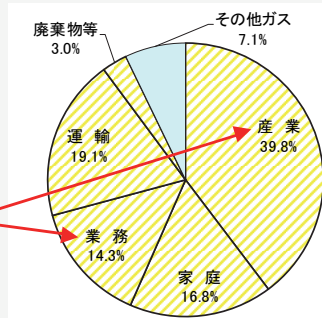
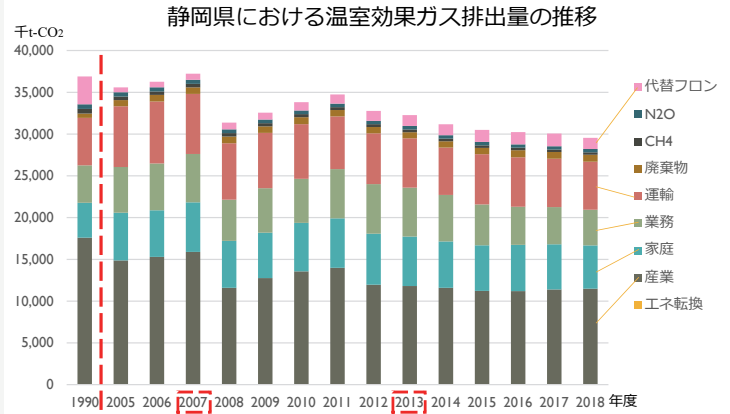


- 私は、静岡県・市町における地球温暖化対策に約20年間たずさわってきました。
- 本報告では、その経験をもとに、**地方公共団体としての静岡県**がこれまで取り組んできた地球温暖化対策を振り返り、今後の課題についての考えをお話したいと思います。

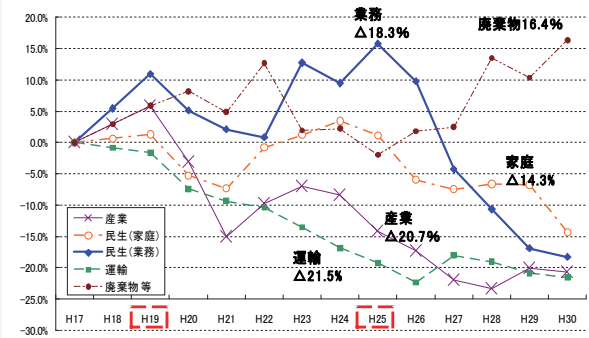
気候は温暖、海と山がバランスよくある、再生可能エネルギーが豊富
三島市から湖西市まで臨海部の工業地域
静岡茶やみかんに代表される農業
マグロ・カツオ・桜エビなどで有名な漁業
富士山・伊豆半島・南アルプス・浜名湖などの観光
2017年度県内総生産は1兆2770億円（名目、日本の約3.2%：ギリシャや
ニュージーランドなどと匹敵）
人口は約364万人、日本の約2.7%、都道府県別ランキングで10位
電力消費量：7位（愛知、茨城、千葉、兵庫、神奈川、大阪）

基礎 DATA

- 静岡県からのGHGs排出量は2007年度がピーク（全国では2013年度）
- 2019年度の排出量は2005年度比で **-18.2%**（2021年度目標-21.0%）



うち**50%以上**は、**584**(県内事業所数約18万の**0.4%**)のエネルギー管理指定工場から



過去

2005年度に本格始動

国際・国
レベル

2005年2月「京都議定書」発効

2005年4月「京都議定書目標達成計画」閣議決定

- 2002年度「富士地域煙突ゼロ作戦」開始（天然ガスコジェネの導入促進）
- 2004年10月「静岡県地球温暖化防止活動推進センター」の指定（NPO法人アースライフネットワーク）
- 2006年3月「ストップ温暖化しずおか行動計画」策定（目標：2010年度の排出量を1990年度比で**12%削減**）※実際は**8.2%**
- 2007年3月「静岡県地球温暖化防止条例」制定（温室効果ガス排出削減計画書制度）
- 2007年度 県民運動「ストップ温暖化アクションキャンペーン」開始
中小企業省エネルギー診断の実施
温室効果ガス削減対策事業費補助金（省エネ改修）



目 次

第1章 新計画策定の背景・基本方針	1
1 新計画策定の背景	1
(1) 京都議定書の発効	
(2) 増加する温室効果ガス排出量	
2 新計画策定の基本方針	6
(1) 計画の位置づけ	
(2) 対象ガスと削減目標	
(3) 基本方針	
第2章 目標達成に向けた取組み	8
1 各主体の役割	8
2 京都議定書目標達成計画の推進	9
3 従来からの取組みの一層の推進	9
4 重点的施策の推進	9
(1) 事業者の創意工夫を生かした計画的な取組みの促進	
(2) 自動車から排出される二酸化炭素抑制のための施策の推進	
(3) 家庭における省エネルギー行動等の促進	
(4) 建築物の省エネルギー対策	
(5) 新エネルギー対策	
(6) 森林吸収源対策・緑化推進対策	
5 その他の施策の推進	20
第3章 温室効果ガス削減目標	22
(1) 京都議定書目標達成計画に基づく削減見込み	
(2) 県独自の重点的施策の推進による削減目標	
第4章 計画の推進、進行管理	25
1 計画の推進	25
(1) 「温暖化防止県民会議」による推進	
(2) 県民運動の展開	
(3) 市町、センター、地球温暖化対策地域協議会等の様々な団体との協働	
(4) 推進員をはじめとする人的資源の活用	
(5) 庁内推進組織の充実	
2 計画の進行管理、点検・評価の仕組み	26
(1) 温室効果ガス排出量等の迅速かつ的確な把握	
(2) 計画の進捗状況の的確な把握	

現在

政策の中心課題から外れた10年

国際・国
レベル

世界金融危機、「ポスト京都」の迷走

2020年目標：2005年比で3.8%削減 (2013年11月発表)

■ 2011年3月 「ふじのくに地球温暖化対策実行計画」策定

2015年3月：改定 2020年3月：一部改定 (2020年度の排出量を2005年度比で21%削減)

※地球温暖化対策が県政の中心課題から外れ、ヒトもカネも政策的熱意もすべて「スリム化」してしまった

※2008年度以降、排出量は減少しはじめたが、今後につながる新機軸は打ち出せず

■ 一方、取り組みを積み重ねている市町も

浜松市、沼津市、三島市、富士宮市、富士市、掛川市、御前崎市、長泉町 etc.

<改定版>

ふじのくに地球温暖化対策実行計画

策定 平成 23 年 3 月
改定 平成 27 年 3 月
(令和 2 年 3 月一部改定)

目次

第1章 計画改定の趣旨	
1-1 計画改定の背景	1
1-2 基本的事項	6
第2章 静岡県の概要	
2-1 気象状況	9
2-2 人口及び世帯数	10
2-3 経済活動	11
2-4 交通	13
第3章 温室効果ガス排出量の現状と取組等	
3-1 県内の温室効果ガスの排出状況	15
3-2 県内の温室効果ガス排出量の分析	18
3-3 温暖化防止に向けた県の取組	26
3-4 県内の温室効果ガス排出量（現状すう勢）の推計	34
第4章 温室効果ガス排出量の削減目標	
4-1 削減目標の考え方	36
4-2 削減見込量の推計	37
4-3 削減目標	42
第5章 削減目標の達成に向けた取組	
5-1 低炭素社会の構築	45
5-2 取組方針	45
5-3 施策体系	47
5-4 重点施策	49
5-5 個別施策	53
第6章 計画の進行管理	
6-1 計画の推進	65
6-2 進行管理	68
第7章 適応策	
7-1 適応策の必要性	71
資料編	72

未来

再始動：存在価値が問われる10年

国際・国
レベル

国・自治体のリーダーによる「脱炭素宣言」
企業によるSBTやRE100の取り組みの広がり：

「たかが県、されど県」：県の存在価値が問われる

- 一 県に何ができるのか？（ヒト・カネ・情報・権限、どこにも優位性なし）
- 一 しかし今、再び県の動向が注目を集めている

⇒ 「2050年脱炭素・静岡の未来像(ビジョン)」の提示

- 一 「脱炭素宣言」をしている県内11市町はおそらく切望
新たな投資に乗り出そうとしている企業・事業者も注目
- 一 静岡市は独自の動き

おわりに

県をやろうと思わせるのは何か？
地球温暖化対策を県政の中心課題に押し戻す力はなにか？

① トップの判断



@dpa: School Climate Strike, Fridays for Future, Greta Thunberg

② トップの判断に影響を与える県民の取り組み